

## 令和颱風

染谷 秀雄

九月九日の颱風十五号は初めて経験する大風と大雨であった。それもピークが未明であったため怖さも半端ではなかった。大風は雛壇造成の木造の家を揺るがし、大雨はバシヤバシヤと家全体に大量の水を何杯もかけるようだった。そのうち寝室の豆電球が消え停電を知った。こんな状態では明るくなるまでは復旧はないと思っていたものの、昼を過ぎても一向に復旧しない。テレビの情報は掴めず、だんだん携帯の電源も減ってきてしまった。かくなる上はと懐中電灯とあるだけの電池、携帯ガスコンロを探し出し、たまたま買い置いてあったカップヌードルを食べた。夜になると心配した娘が息子と連絡を取り迎えに来てくれた。暑い中でエアコンも使えずに一日中家の中に居たら熱中症になる心配があったからだ。そこで妻だけ先に行かせた。私は翌日仕事に行かねばならないため、自宅で寝泊まりしてもよいと思った。だが翌日以降も停電復旧の見込みがないことが判明したので、一日遅れで息子の家に世話になることにした。交通機関も不通で仕事も休むはかなかった。が四日目の夜になり復旧したようだということで急家に戻った。当然冷蔵庫の中は全部出して後始末をされていて夜中になってしまった。やれやれと思ったのも束の間、今度は十月二十五日に降った大雨、千葉では半日で十月一ヶ月分の雨量ということ十五河川の氾濫から交通機関が大いに乱れ、各地でも甚大な被害が伝えられた。電気のない生活はこりごりだが今後とも予期せぬことの可能性は大いに高い。普段から十分な身の回りの備えが必要になってくる時代になった。